

博士論文要旨

学籍番号	1208002	氏名	藤澤まこと
論文題目	医療機関の退院支援の質向上に向けた看護のあり方に関する研究		
<p>研究目的 本研究では、医療機関の患者・家族の退院支援におけるニーズに対応するための看護実践のあり方、医療機関の退院支援の組織的体制の構築に向けた方策、および看護職者の意識改革に向けた方策を追及し、退院支援の質向上に向けた看護のあり方を提言する。</p> <p>研究方法 本研究は3つの研究より構成されている。</p> <p>研究1は、医療機関の看護職者への質問紙調査から看護職者が捉えている退院支援の課題を明確にする。研究2は、医療機関における退院支援の発展過程を明確にし、そこから退院支援の課題解決・発展に向けた方策を検討する。研究3は、複数の医療機関の退院支援の課題解決・発展に向けた取り組みへの支援により退院支援の課題解決・発展に向けた方策を検証する。倫理的配慮：本研究は、岐阜県立看護大学大学院看護学研究科論文審査部会の承認を受けている（21 - A014 - 2）。</p> <p>結果 1．医療機関の退院支援の課題として「入院時から退院に向けたアセスメント・計画的支援が不十分」「退院支援の時期の見極めが困難」「多職種参加のカンファレンスの開催・定着が必要」「多職種間の連携が不十分」「退院支援への知識・認識・関心の不足」「退院支援体制の整備が必要」「地域の社会資源の不足」「患者・家族の状況により退院支援が困難」および「患者・家族の意向に沿うことが困難」が示された。</p> <p>2．A 医療機関の退院支援の発展過程より、「退院支援の課題解決・発展に向けた方策」が次のように導かれた。それらは、退院後の生活を視野に入れた入院時アセスメントの実施、退院後の生活のための多職種参加のカンファレンスの企画・開催、退院後の療養生活把握のための取り組みの実施（家庭訪問・外来との連携・地域の専門職との連携）退院支援に対する看護師の意識の把握・意見交換の実施、看護職者の意識改革に向けた教育支援の実施、病棟内での退院支援の組織的体制の構築、医療機関全体の退院支援の組織的体制の構築であり、これらの方策は、【退院支援の取り組みの確実な実施】【看護職者の退院支援に関する意識の変革】【退院支援の組織的体制の構築】に集約された。</p> <p>3．上記の「退院支援の課題解決・発展に向けた方策」を活用して、医療機関（B、C、D）において発展の方向性を検討した取り組みを行った結果、各医療機関の退院支援の課題が明確となり、それらに着実に対応することが退院支援の発展につながり、その方策の活用は、退院支援の課題解決・発展に向けて効果的であることが検証できた。</p> <p>考察 退院支援の質向上においては、第一に入院時から退院後の生活状況を把握し、患者・家族を含めたカンファレンス等を有効に活用しながら準備を進める取り組みが基盤となる。そして、退院支援の組織的な体制の構築としては、病棟内での支援体制を整備すること、病棟での活動を支援する関連委員会活動を充実させ、退院支援部門と実質的な連携をとることが重要であると考えられた。また、看護職者が患者・家族を生活者と捉えて、その意思決定に沿った退院支援の重要性を理解し、実践できる能力を高めるためには、組織全体としての教育体制の整備と、病棟における事例検討・学習会など、退院支援についての認識を深める機会を継続的に提供することが必要であると考えられた。それらに取り組むことが、看護職者の退院支援に関する看護実践能力および意識の向上につながり、医療機関における退院支援の質向上に向けた看護のあり方であると考えらる。</p>			

(別記様式 1)

番 号 :

平成 23 年 2 月 16 日

平成 22 年度博士論文審査結果報告書

主 査 北山三津子

副 査 田村 正枝

副 査 黒江ゆり子

平成 22 年度博士論文の審査及び最終試験を実施した結果は、下記のとおりです。

記

学籍番号：1208002

氏 名：藤澤まこと

審査結果： 1 . 合格 2 . 不合格 3 . 保留

[審査結果要旨]

(1,000 字以内)

本研究(論文題目「医療機関の退院支援の質向上に向けた看護のあり方に関する研究」)は、医療機関の患者・家族の退院支援におけるニーズに対応するための看護実践のあり方、医療機関の退院支援の組織的体制の構築に向けた方策、および看護職者の意識改革に向けた方策を追求し、退院支援の質向上に向けた看護のあり方を追求したものである。

医療機関の看護職者への質問紙調査から看護職者のとらえている退院支援の課題として、入院時から退院に向けたアセスメント・計画的支援が不十分、退院支援の時期の見極めが困難、多職種参加のカンファレンスの開催・定着が必要、多職種間の連携が不十分、退院支援への知識・認識・関心の不足、退院支援体制の整備の必要性などが挙げられた。

また、A医療機関の退院支援の発展過程より「退院支援の課題解決・発展に向けた方策」が導かれた。それらは、退院後の生活を視野に入れた入院時アセスメントの実施、退院後の生活のための他職種参加のカンファレンスの企画・開催、退院後の療養生活把握のための取り組みの実施、退院支援に対する看護師の意識の把握・意見交換の実施、看護職者の意識改革に向けた教育支援の実施、病棟内での退院支援の組織的体制の構築、医療機関全体の退院支援の組織的体制の構築である。これらを活用して医療機関B、C、D、において発展の方向性を検討した取り組みを行った結果、各医療機関の退院支援の課題が明確になり、それらに着実に対応することが退院支援の発展につながり、この方策の活用が、退院支援の課題解決・発展に向けて効果的であることが検証された。これらの過程を的確にデータ化し分析し考察しており、取り組み全体として評価できる。

本研究科の倫理基準に基づいており、倫理上の問題もなく、論旨に一貫性があり適切に記述されている。

なお、審査会議のうち2回は当該学生が出席し、教員からの口頭試問に応答し、かつ直接指導を受けた。この過程を最終試験とし、合格とした。

以上のことから、博士論文と認め、合格とする。